山陰総合 sanin

完成したサラノバレタスの栽培施設を見学する関係者＝出雲市神西沖町

レタス 高度環境制御栽培

太陽光利用し水耕で
出雲に次世代ハウス

JAしまね子会社

JAしまねの子会社、JAいずもアグリ開発（出雲市今市町）が次世代型農業のモデルとして出雲市神西沖町に建設した高度環境制御栽培施設の竣工式が16日、現地であった。リーフレタスを周年栽培し、量販店や外食向けの契約販売で年1億4千万円の売り上げを目指す。

施設は16連棟の温室ハウス（約9500平方メートル）で太陽光を利用した水耕栽培の植物工場となり、遮光や培養液の水温などを自動で制御する。総工費は約7億円で、国の事業を活用し半額の助成を受けた。

リーフレタスの一種で、葉の枚数が多く、味にくせがない「サラノバレタス」を栽培し、西日本で数少ない生産拠点として関西や山陽市場向けに4月下旬から出荷する。

同JAは栽培と経営のモデルを確立した上で、中小型の施設で生産者を広げたい考え。竣工式には関係者約70人が出席し、石川寿樹・出雲地区本部長は「出雲の農業を盛り上げる起爆剤にしたい」と話した。（吉田雅史）

国連の持続可能な開発目標
島大生ら理解深める

事例紹介やゲームで

国連が掲げる「持続可能な開発目標（SDGs）」に理解を深めるセミナーが16日、松江市西川津町の島根大であり、学生たちが事例紹介やゲーム形式のワークショップを通じて、実現策を話し合った。

SDGsは2030年を期限に世界が取り組む目標で、飢餓撲滅や質の高い教育など17項目がある。セミナーは島根大とエコサポしまね（松江市殿町）が企画し、学生やNPO法人の職員など30人が参加した。

SDGsに積極的な広島県内の大学生3人が、活動を推進する同県取材した事例を修道大1年の阿ん（19）は、水

立候補予定者を追う
――2019島根県知事選

任期満了に伴う4月7日投開票の島根県知事選の告示（21日）が迫ってきた。44年ぶりの保守分裂選挙が確実な情勢の中、立候補を予定する無所属の新人4人の前哨戦が過熱している。

支持拡大に向け、どのように県内を駆け回り、有権者に何を訴えているのか。活動が本格化した3月の4人の動きを追った。

「チェンジ、チャレンジ、おおばせいじ」

14日、出雲市塩冶有原町2丁目の市民会館であった決起集会。自民党が推薦する元総務省消防庁次長の大庭成司氏

ーズの浸透を図＝14日、出雲市丁目、市民会館

選挙区）に加え、党所属の衆院議員2人も応援弁士として出席した。

11日に出身地の松江市であり、下村博文党憲法改正推進本部長が出席した集会で、

などを呼び掛けている。母校の松江南高校などの同窓生も市内の後援会事務所に張り付き、支持拡大に汗を流す。県連の福田正明幹事長は「上昇気流に乗って与党を迎えうる